

### 4. 第二期計画の成果と課題

#### 1. 公害の防止

基本的施策	2020年に向けた目標
大気汚染の防止	環境基準・排出基準・規制基準の遵守、廃棄物の適正処理
水質汚濁の防止	環境基準の遵守、中小河川や水路に生物が息できるように生活排水対策実行、地下水の飲料水質確保
地盤沈下の防止	地下水の適正利用、監視体制確立
土壌汚染の防止	環境基準遵守・地下水質確保、農薬等適量使用・適正保管
防音の防止	環境基準・規制基準の遵守、生活騒音や深夜騒音の抑制
振動の防止	規制基準の遵守
悪臭の防止	規制基準の遵守、野外焼却の禁止
典型7公害以外の公害への対策	環境マネジメントシステム取得推進、関係機関と連携した調査研究・情報収集、化学物質の理解深化

#### ➤ 現状、成果や達成状況

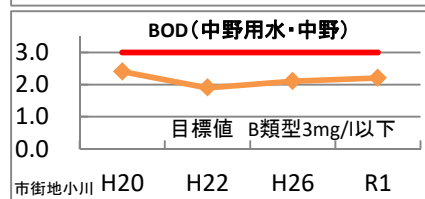
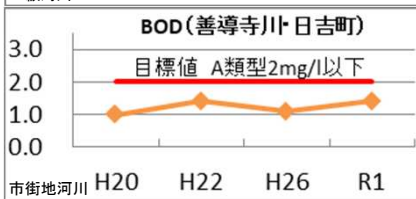
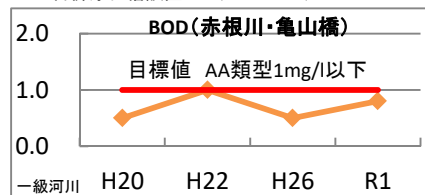
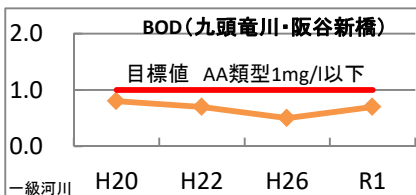
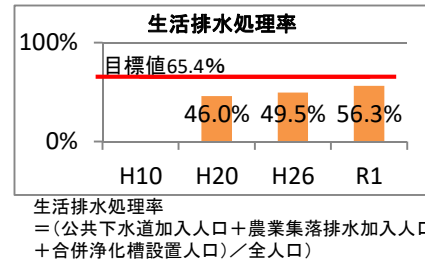
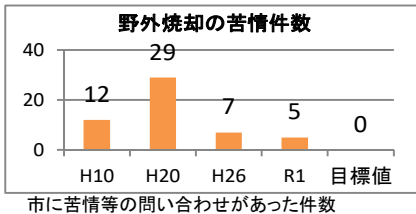
- ✓ 大気汚染は、発生源となる大規模工場が少なく、人の健康を害する広域的な問題は発生していない
- ✓ 光化学オキシダントは、特に紫外線の強い春夏に環境基準を超えることがある。そのため、光化学スモッグ発生時の、県-市町-学校等間の連絡体制を構築したが、注意報発令には至っていない
- ✓ 水質基準は、いずれの河川においても環境基準を満たしている
- ✓ 生活雑排水対策として、公共下水道の整備及び加入促進等を実施した
- ✓ 公害等に関し大規模な被害等は報告されておらず、おおむね環境基準を満たしている
- ✓ 野外焼却や油漏れ等の苦情に対し、関係機関と連携し、早期解決を図った
- ✓ 県との定期的な合同パトロールや環境監視員(市民)による巡回等により、不法投棄の早期発見に努めた。また、頻発地に監視カメラや看板等を設置するなどし、再発防止に努めた

#### ➤ 課題

- ✓ 県、市それぞれが法令や条例に基づき事業活動等による公害防止対策や環境基準等の監視(検査)を実施しており、情報共有化や業務効率化が課題
- ✓ 規制に係る届出内容が更新されておらず、ボイラー設備の設置状況等地球温暖化防止対策に活用できる情報も少なくないため、届出情報の最新化とその活用が課題
- ✓ 生活雑排水対策として、単独処理浄化槽から公共下水道等への加入又は合併処理浄化槽への転換が課題
- ✓ 違法な野外焼却や不法投棄が後を絶たず、市民等への啓発が課題
- ✓ 高齢化に伴う環境美化活動の継続困難地区への支援が課題

#### ➤ 今後の取組の方向性

- 環境基準等は守られているが、監視体制等が風化しかねない。今後も、環境基準や規制基準の遵守徹底がなされるように、公害等を防止する手続きや体制を強化する取り組みを進める
- ✓ 法令や条例に基づく、排出基準等の徹底(継続)
- ✓ 規制対象工場等に対する定期的な検査・指導等、県との連携の実施(拡充)
- ✓ 各法令等の基準対象外となる中小事業所への指導(新規)
- ✓ 公共下水道の整備、農業集落排水の適正管理、公共下水道への加入促進、合併処理浄化槽設置の促進等による生活雑排水対策の実施(継続)
- ✓ 違法な野外焼却対策、不法投棄対策の実施(継続)
- ✓ 富田産業団地等、新たな誘致企業との公害防止協定の締結(拡充)



光化学オキシダント	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
達成率(日/年)	85.8%	82.8%	82.2%	85.4%	78.9%	81.9%	86.8%	84.7%	86.8%	87.2%
最高値(ppm)	0.096	0.102	0.097	0.092	0.102	0.098	0.109	0.108	0.087	0.121
平均値(ppm)	0.033	0.033	0.034	0.034	0.036	0.035	0.034	0.034	0.034	0.034

環境基準:最高値が0.06ppm未満福井県注意報発令基準:0.120以上

# 環境の現状と対応すべき課題

## 4. 第二期計画の成果と課題

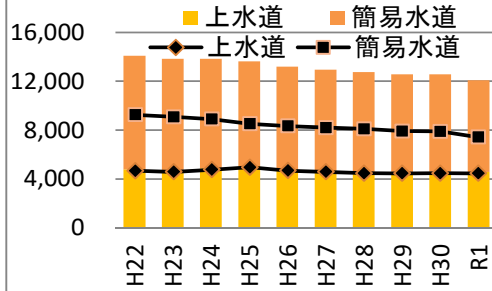
### 2. 自然の構成要素の保全

基本的施策	2020年に向けた目標
水の保全	水循環共生都市の構築、湧水の維持または復元、河川・水路の流量確保、水の流れを楽しめる環境形成
空気の保全	公園面積、身近な緑の増加、集落地域における緑地面積維持、個性豊かな緑地環境保全、星空の楽しめる環境保全
土壌の保全	かん養地の砂れき層保全、山間部の多量土砂採取等防止

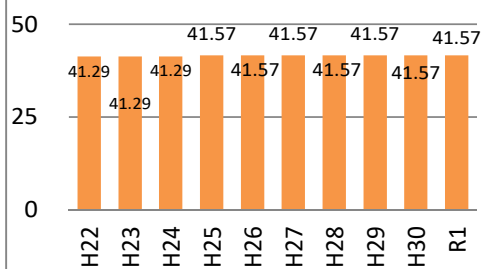
#### ➤ 現状、成果や達成状況

- ✓ 国、大学、研究機関と、市内地下水の流動メカニズム解明に向けた共同研究を行ったほか、水循環・湧水文化再生推進連絡協議会を設立し、水循環に係る情報共有及び各主体の事業推進を図った
- ✓ 冬季水田湛水(約30ha)を実施し、水田かん養を推進した
- ✓ 2011、12年度に市内52カ所の用水における流量調査を実施を行った
- ✓ 河川水、地下水の水質については、県・市において継続的な検査監視を実施している
- ✓ 水道施設に遠方監視装置を導入するなどし、安心安全な上水道を整備した
- ✓ 各環境に大きな影響を与えかねない大規模な開発行為等については、法令や条例に基づき事前届出時に、監理指導している
- ✓ 2018年度から星空を活用した観光振興事業及び光害の実態調査を開始し、星空の楽しめる環境保全に向けて着手した
- ✓ 大野市化石保護規則に基づき、保護区域の化石の保全を行っている

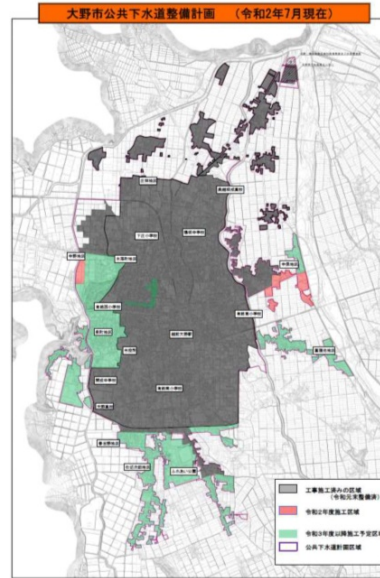
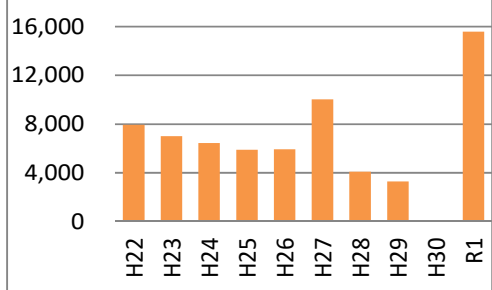
水道の給水人口(人)



都市公園の整備面積(ha)



水田におけるおかし採取面積(m<sup>2</sup>)



化石採取に際し事前届出が必要な保護区域



#### ➤ 課題

- ✓ 冬季湛水面積拡大のため、畑地の利用や効果的な実施場所の検討、新たな水源の確保が課題
- ✓ まちなか用水の環境改善のため、まちなかへの流量の確保が課題
- ✓ 公共下水道整備区域の拡大等の変化を踏まえた河川水水質検査箇所を検証・検討が課題
- ✓ 人口減少や生活様式の変化、ボランティアの活動が低下する中で、都市公園施設の適正化や維持管理費の削減が課題
- ✓ 星空保護区認証を取得するため、市民や街灯などの屋外照明設置者との合意形成、協力体制の構築が課題

#### ➤ 今後の取組の方向性

- 「流域マネジメント」により、水循環都市にふさわしい「水の保全」に取り組む
- 市域の約87%を占める森林により、清澄ですがすがしい空気を享受している。この恩恵の一つである「星空日本一」の利活用を進め、「空気の保全」に取り組む
- 地下水のかん養地における砂れき層、化石の産出が見込まれる地層を保護し、「土壌の保全」に取り組む
- ✓ 「流域マネジメント」による水循環の実現(新規)⇒「水循環基本計画」
- ✓ 光害規制条例の制定、星空保護区の認定(新規)
- ✓ 化石の産出が見込まれる地層の保護(新規)

# 環境の現状と対応すべき課題

## 4. 第二期計画の成果と課題

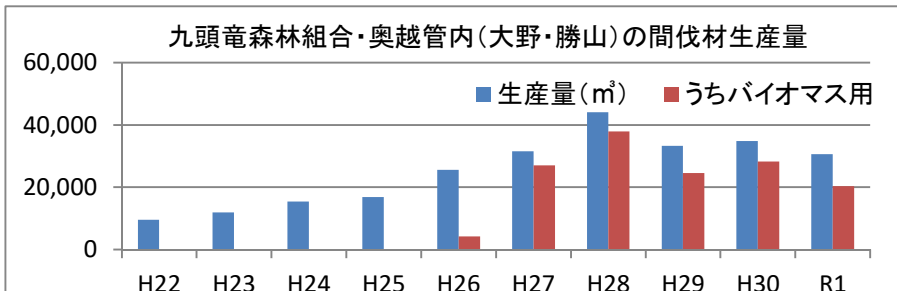
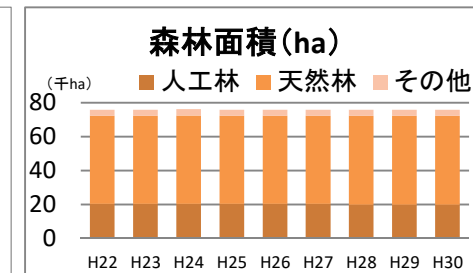
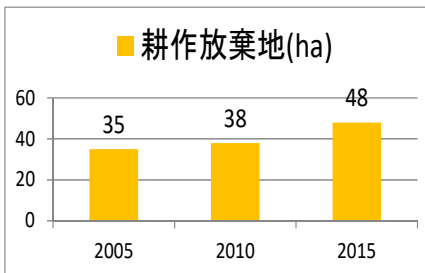
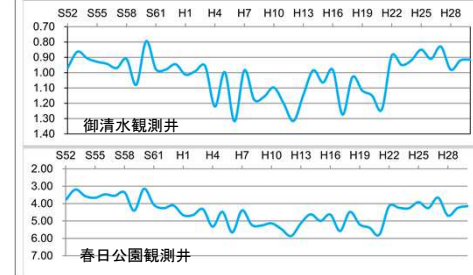
## 3. 自然環境の体系的保全

基本的施策	2020年に向けた目標
河川環境の保全	循環共生機能の保全、周辺環境も含めた体系的な保全、生物多様性、自然と調和した豊かな水辺空間や親水空間の整備
湧水地環境の保全	周辺環境の整備、池や沼の復元、多様生物との触れ合い環境の整備、地域住民による保全活動の促進
農地環境の保全	無秩序な農地転用抑制、美しい田園環境保護、土壌汚染防止、農薬等の適正処理、多面的機能の維持・増進
山林環境の保全	天然林の現状維持、針葉樹林や広葉樹林の保全、公益的機能が高い健全な森林保全、環境に配慮した林道網の整備



真名川で繁茂する樹木

地下水水位の推移



### ➤ 現状、成果や達成状況

- ✓ 九頭竜川および真名川等の一部でみられる、河道内の樹林化等の環境劣化を受けて、国や県と連携し、一部の河川における河川内の浚渫、伐木、真名川における自然出水再現放流の実施により、河川環境の改善を図った
- ✓ 地域住民による除草等河川環境美化活動を43地区34.5ha)で実施している
- ✓ 地下水位は、平成21年度ごろから改善傾向にある
- ✓ 義景清水を再整備(平成24年)し、湧水地周辺環境の保全を図った
- ✓ 農用地面積は、ほぼ横ばいで推移しているものの、過疎化、高齢化等に伴い、耕作放棄地が増加傾向にある
- ✓ 担い手育成や農地パトロール、集落営農や認定農業者への農地集約等の取り組みにより、耕作放棄地の拡大防止を図った
- ✓ 「食・農業・農村ビジョン」に基づき、環境調和型農業を推進した
- ✓ 「大野市森林整備計画」に基づき、森林が持つ多面的機能の保全に努めた
- ✓ 「大野市森・水保全条例」を制定(H24)し、水源地となっている山林を保護した
- ✓ 間伐作業や間伐材の利活用に対し補助するなどし、利用促進を図った

### ➤ 課題

- ✓ 河道内の樹林化や河原の消失等の環境劣化解消が課題
- ✓ 点在する湧水地の実態把握と、飲用している場合はその衛生環境の確保と地域の積極的な関わりを通じた持続可能な維持管理体制の構築が課題
- ✓ コンクリートを主とした河川整備などの治水対策により減少した親水空間の再生が課題  
⇒ 以上、「水循環基本計画」
- ✓ 担い手や後継者不足による農地の荒廃や耕作放棄地増加を防ぐため、スマート農業等の省力化や集落を超えた広域化、協業化の推進が課題
- ✓ 森林整備や維持管理が行われていない民有林の経営管理支援が課題
- ✓ 林業従事者の確保、育成が課題

### ➤ 今後の取組の方向性

- 市や河川管理者が連携して、子どもたちが安全に水辺に近づく環境学習や自然体験活動のフィールドとして「真名川水辺の楽校」の活用を検討する
- 水文化も含め地域の積極的な関わりを通じた持続可能な維持管理体制の構築に取り組む  
⇒以上、「水循環基本計画」
- 農地、山林の持つ多面的機能を継続的に発揮させるため、AIやIoT等新しい技術も活用し、農地及び山林の適正管理、多様な担い手の育成、地域資源としての活用等に取り組む
- ✓ 「流域マネジメント」による水循環の実現(新規)⇒「水循環基本計画」
- ✓ 「越前おおの型食・農業・農村ビジョン」の推進(継続)
- ✓ 「森林経営計画制度」を活用した整備及び保全の推進(継続)

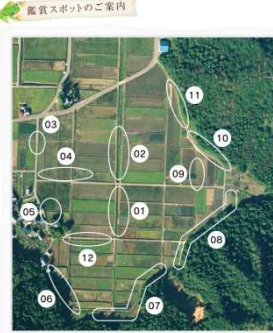
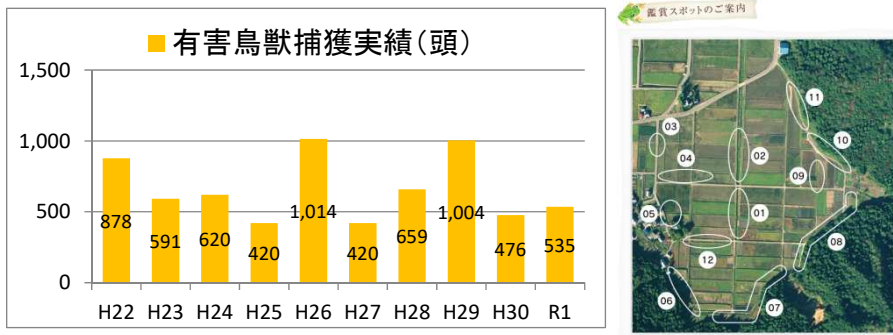
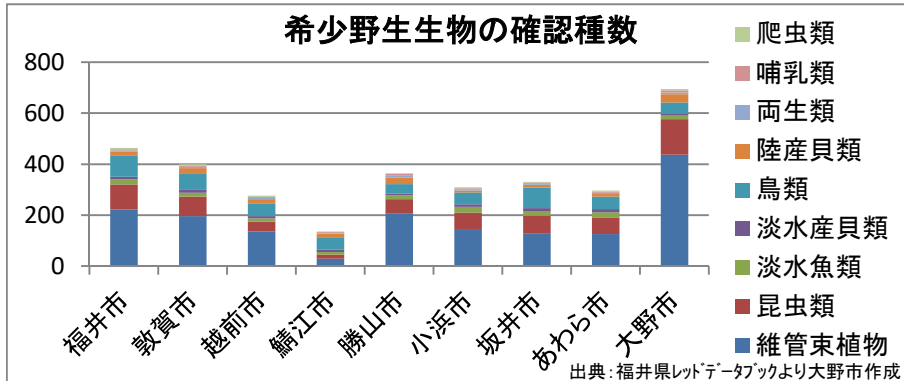


# 環境の現状と対応すべき課題

## 4. 第二期計画の成果と課題

### 4. 生物多様性の確保

基本的施策	2020年に向けた目標
生物の保全	保護された希少野生生物の保護対策の推進 身近な生物の調査・実態把握
生息環境の保全	生息環境の保全



地区における環境保全の取組  
(富田農地水環境保全協議会提供)

期日	数量	備考
H26.10.13	1匹	観察窓より目視
H27.9.16	1匹	"
H28.9.25	2匹	"
H28.10.5	1匹	捕獲
H28.11.16	1匹	捕獲
H30.10.3	2匹	観察窓より目視
H30.10.7	1匹	捕獲
H31.4.17	1匹	観察窓より目視
R1.4.21	1匹	捕獲

イトヨの里(生息池)における外来生物  
(コクチバス)の捕獲数等

#### ➤ 現状、成果や達成状況

- ✓ 豊かで多様な自然環境を背景として、さまざまな生物が生息しており、絶滅に瀕した希少野生生物の確認数は、県内で最も多い
- ✓ 本願清水イトヨの里にて、イトヨの保護と研究を推進するとともに、イトヨに害を及ぼす外来生物に関する環境教育を実施したほか、特別天然記念物に指定されているカモシカをはじめとする希少野生生物の保護に努めた
- ✓ 白山国立公園及び白山ユネスコパーク(環境省)に打波・刈込池周辺が指定され、県立自然公園に「奥越高原県立自然公園」が、重要里地里山(環境省)に「六呂師高原」「能郷白山・伊吹山地の里山」が、重要里地里山30(福井県)に「六呂師高原-湿地群・草地-」「大野盆地-湧水地・赤根川-」が選定されている
- ✓ 各小中学校では、総合的な学習時間等において、地域特性を生かして、学校周辺の生き物の調査や観察を行い、身近な生き物と触れ合っている
- ✓ 公民館を拠点に地域住民らでホタルやカタクリの保護や湧水地の再生、ビオトープ作りなどの活動を実施している
- ✓ 山林ではシカの食害やクマ剥ぎなど、農地ではイノシシなどの鳥獣被害が頻発しており、電気柵やネット柵設置費に補助するなど、地域ぐるみで有害鳥獣対策を促進した

#### ➤ 課題

- ✓ 市内の希少野生生物に関する情報が不足しており、生息環境や保全方法等について、専門機関と連携した現状把握と情報収集が課題
- ✓ 里地里山づくりについては、農地、山林、生物、環境教育の各分野で進められているが、総合的なとりまとめが課題
- ✓ 各地域で散発的な活動が見受けられるが、組織強化、活動継続が課題
- ✓ 外来生物の生息状況や被害状況など、実態把握が課題
- ✓ 捕獲隊の高齢化と後継者不足のため、若い狩猟者の確保・育成が課題

#### ➤ 今後の取組の方向性

- 関係機関との連携、市民協働により、里地里山の保全・再生・活用を目指す
- あらゆる世代が、大野の魅力の一つでもある自然に触れ合える場と機会の創出を目指す
- 専門機関や地域住民と連携し、外来生物の調査と駆除を推進する
- 有害鳥獣害対策を推進する
- ✓ 六呂師高原や亀山、河川の水辺や湧水地を活用し、身近な生き物と触れ合える活動を推進する
- ✓ 市民協働による外来生物の駆除により、生物多様性の保全を図る
- ✓ 地域ぐるみによる防護柵の設置や捕獲隊の後継者育成等により有害鳥獣による被害削減を進める

# 環境の現状と対応すべき課題

## 4. 第二期計画の成果と課題

## 5. 良好な景観形成及び歴史的文化的遺産の保存

基本的施策	2020年に向けた目標
良好な景観形成	優れた自然景観形成地区の保護、屋外広告物の減、歴史性豊かなまち並み景観の保全・育成、市民等の参画による景観誘導
歴史的文化的遺産の保存	遺跡の周辺環境と一体的な保全、文化財や歴史資料の恒久的な保全・保護、開発行為に先立ち埋蔵文化財を保全、博物館等入館数の増加

### ➤ 現状、成果や達成状況

- ✓ 大野市景観計画(H19)に基づく景観形成とまちづくりを積極的に進めてきた
- ✓ 寺町通り、五番通り、七間通り周辺を「景観形成地区」に指定し、歴史性豊かなまち並み景観への誘導を図った
- ✓ 一方で、特にまちなかでは住宅の郊外化や人口減少によるまちの空洞化が進み空き家が増えるなどまち並みの「途切れ」が見受けられる
- ✓ 美しい自然やまち並みなどの景観や風景をインスタグラム等のSNSを活用し、市内外にPRし、その啓発及び観光促進に取り組んだ
- ✓ 無形民俗文化財の保存団体に補助金を交付し、団体を育成支援するとともに、伝統文化伝承事業「おおの遺産」の認証制度を定め、市内に古くから伝わる伝統文化の伝承を推進した
- ✓ 国・県・市の文化財指定や登録をすすめ、文化財の保護に取り組んだ

### ➤ 課題

- ✓ 屋外広告物は、規制区域内でのまちなかにふさわしくないデザインの屋外広告物の撤去や改修が進んでおらず、対応が課題
- ✓ 人口減少や生活様式の変化、ボランティアの活動が低下する中で、都市公園施設の適正化や維持管理費の削減が課題
- ✓ 地域文化の後継者不足により停滞した活動の活性化が課題

### ➤ 今後の取組の方向性

- 地域別の景観形成方針ごとの基準に基づき、景観誘導を行い、美しい景観を目指す
- 優れた自然景観については、SNS等を活用した市民発信による普及啓発を促進し、その利活用と保全を図る
- ✓ 景観形成地区における、歴史性豊かなまち並み景観の誘導促進(継続)
- ✓ 大規模な建築行為や屋外広告物等に対し、周囲との調和のとれた景観誘導の促進(継続)
- ✓ SNS等を活用した優れた自然景観や風景等の啓発促進(新規)
- ✓ 都市公園施設の適正化及び長寿命化の推進(拡充)
- ✓ 地域文化の後継者の育成支援とおおの遺産認証による保全・継承活動の支援(新規)



SNS等を活用した情報発信

地域別の景観形成方針

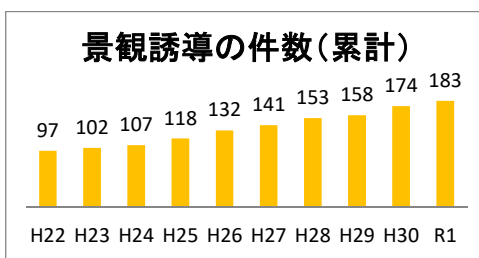


図 地域別の景観形成方針



国、県、市により指定された文化財の総数(累計)	143点 (令和元年度0点)
おおの遺産の認証数(累計)	18件 (令和元年度2件認定)

(R2.3.31現在)



# 環境の現状と対応すべき課題

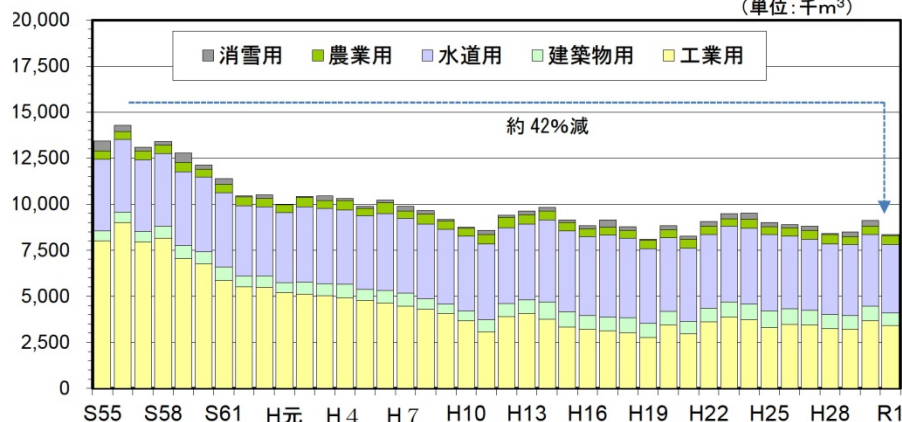
## 4. 第二期計画の成果と課題

## 6. 地下水の合理的利用及びかん養対策

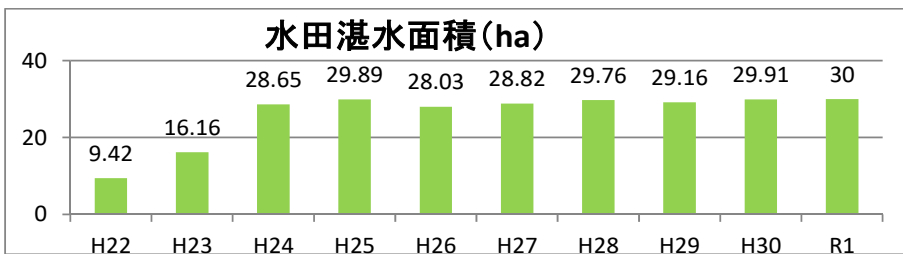
基本的施策	2020年に向けた目標
地下水の合理的利用	昭和50年代の地下水位まで回復、水道水と同水準の水質確保、条例に基づく利用状況の適正な届出と管理
地下水かん養対策	かん養域での無秩序な農地転用の抑制、雨水浸透施設の普及、水田湛水の拡大、浸透性の高い基盤整備の推進

### 用途別地下水揚水量の推移

出典：大野市（地下水保全条例に基づく統計）  
（単位：千m<sup>3</sup>）



### 水田湛水面積 (ha)



観測井名	保全目標水位	保全目標水位を超過した日数											
		S50年代	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
御清水	1.2 m	30	129	171	31	40	34	0	0	0	31	9	37
春日公園	5.5 m	1	60	202	49	41	63	0	10	10	79	16	58
菖蒲池	7.0 m	0	45	187	58	39	5	0	0	0	37	0	37

### 現状、成果や達成状況

※水循環基本計画にて検証

- ✓ 現在も、生活用水、工業用、建築物用など多くの用途でほとんどの水源を地下水に依存
- ✓ 年間地下水揚水量は、令和元年度には約834万m<sup>3</sup>にまで減少、近年は、水収支がほぼ均衡しているとされる860万m<sup>3</sup> (H14市地下水総合調査)をわずかに下回る量で推移している
- ✓ 水田面積は徐々に減少し涵養機能が低下、湧水減少の一因と考えられる
- ✓ 地下水位は昭和50年代から下降傾向だったが、平成21年度から改善傾向あり。冬期水田簡水面積の拡大、真名川のフラッシュ放流等による河川環境改善などの取り組みにより涵養量が増加し、地下水収支バランスが改善したと考えられる
- ✓ 地下水の水質については、乾側地区において地質由来のマンガンや鉄が基準値を越えて検出されているが、他の地域においては水道法で定める飲料水基準を満たしている

### 課題

※水循環基本計画にて検証

- ✓ 日常的な節水意識の定着化が課題
- ✓ 冬期間における地下水を利用した消雪行動を抑制することが課題
- ✓ 農地における貯留・涵養機能の向上、湛水面積拡充が課題
- ✓ 平成元年に発生した地下水汚染(テトラクロロエチレン)については、令和元年度の水質検査でも基準値を超過しており、引き続き浄化対策が必要
- ✓ 気候変動が、本市流域における水循環に与える影響などのリスク把握や適応策の検討が課題

### 今後の取組の方向性

※水循環基本計画にて検討

- 大野市全域を九頭竜川における一つの流域ととらえたうえで、この流域において関係する多様な主体(公的機関・事業者・有識者・関係団体・市民等)が連携・協力しあう「流域マネジメント」を取り入れ、これまでの地下水保全の取組みを更に一歩進めて、水循環全体の健全化を目指す
- 各種の個別計画における水に関する施策と整合を図りつつ、水循環に関する施策を総合的かつ一体的に推進する
- ✓ 水循環基本計画(R2末策定)に基づく、流域マネジメントの推進

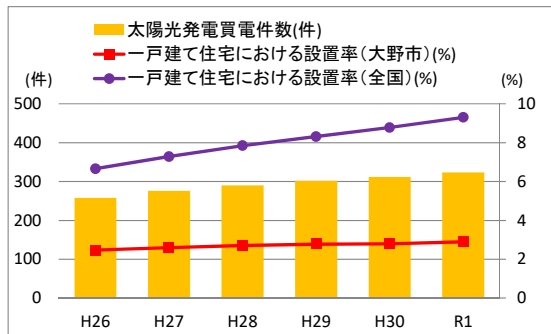


# 環境の現状と対応すべき課題

## 4. 第二期計画の成果と課題

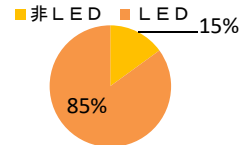
## 7. 資源及びエネルギーの有効利用

基本的施策	2020年に向けた目標
自然エネルギーの利用	自然エネルギーを活用する生活様式や事業活動の定着化、バイオマスエネルギー等新エネルギーの調査研究
省資源、省エネルギーの推進	循環型社会の推進、環境配慮型の市民生活や事業活動の定着化、電力使用量の削減

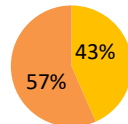


出典: 資源エネルギー庁資料から大野市作成

### 街路灯(市道)



### 防犯灯(市+地区)



令和元年度末現在

### 市内の再生可能エネルギー(小水力・バイオマス)発電所一覧

種類	発電所名	最大出力	開始	管理者
小水力	このき谷	199kw	2016	電源開発(株)
小水力	黒谷川	42.7kw	2019	みどり環境研究所(株)
木質バイオマス	大野	7,000kW	2016	(株)福井グリーンパワー



出典: (株)福井グリーンパワーHP



出典: 電源課発(株)HP

### ➤ 現状、成果や達成状況

- ✓ 太陽光発電設備補助を実施し、計画期間中に116件に対し補助を行ったが、設置費用の低価格化が進んだことから、平成26年度に補助を廃止した
- ✓ 1年間に太陽光発電による余剰電力分を電力会社に売却(売電)した件数(年度別)は、H23.3時点(118件)からR2.3時点(323件)で約3倍に増加し、普及が進んでいるが、全国の設置率と比較すると3倍近い差がある
- ✓ 民間事業者による小水力発電所や木質バイオマス発電所の建設に際し、導入支援を実施し、現時点(R2.3.31現在)で、バイオマス発電所1件、小水力発電所2件が稼働済みで、この他、未稼働だがFIT承認済みの小水力発電所が2か所ある
- ✓ 下水処理施設から発生する汚泥は、ごみ処理施設で熔融し、発生した熔融スラグは建設資材などに有効利用した

### ➤ 課題

- ✓ 太陽光発電設備の導入促進が課題
- ✓ 固定価格買取制度(FIT)の動向見きわめが課題
- ✓ 取組が進んでいないと思われる中小規模事業者向けの支援が課題
- ✓ 再生可能エネルギーの導入にあたっては、周囲の自然と調和した開発が課題

### ➤ 今後の取組の方向性

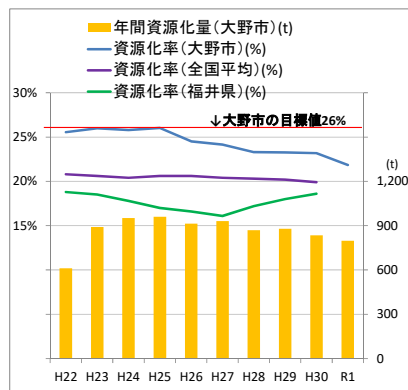
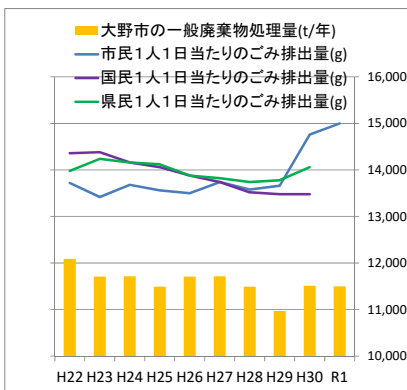
- 成果の見える化など楽しく取り組める仕組みづくりを検討し、省エネ型の生活や事業活動の定着化を目指す
- 家庭や事業所(特に削減余地の大きい中小事業所)における再生可能エネルギー設備の導入や省エネルギー設備への切り替えなどを支援する
- 地域資源を活用した再生エネルギーの導入を目指す
- 公共施設での再生可能エネルギー設備等やPPAサービスによる太陽光発電設備の設置など、防災時におけるエネルギーの自立・分散化について検討する
- ✓ 県と連携し、県民運動「LOVEアースふくい」の取り組みを推進する(継続)
- ✓ 省エネ診断等、中小企業の省エネ等に対する取組支援(新規)
- ✓ 木質バイオマスや小水力等の再エネ導入(継続)
- ✓ 省エネ、再エネ設備を公共施設において積極的に導入する(拡充)

# 環境の現状と対応すべき課題

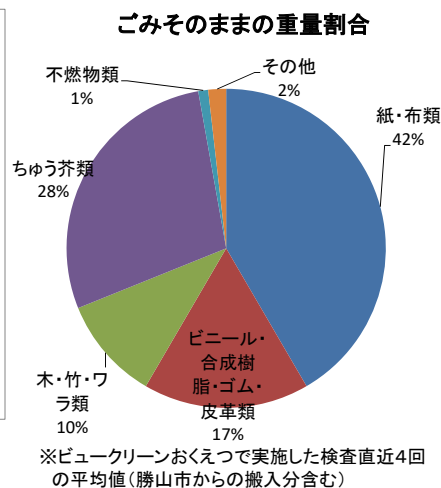
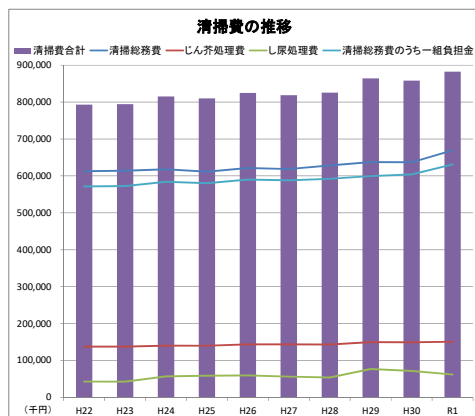
## 4. 第二期計画の成果と課題

## 8. 廃棄物の減量及びリサイクルの推進

基本的施策	2020年に向けた目標
廃棄物の減量	3Rの取り組みを通じた循環型社会の構築
リサイクルの推進	市民のリサイクル意識の高揚



### ごみの組成割合(令和2年度)



※ビュークリーンおくえつで実施した検査直近4回の平均値(勝山市からの搬入分含む)

出典: 大野・勝山広域事務組合資料を基に市作成

### 現状、成果や達成状況

- ✓ 一般廃棄物の排出量は、減少傾向にあるが、市民1人1日当たりのごみ排出量は、平成29年度から増加に転じており、また、国県の平均を上回っている
- ✓ 資源化率は、平成25年度まで、目標値あたりで推移していたが、平成26年度以降、減少傾向にある。古紙類をごみステーションにて収集していることなどから国県平均を上回っている状況にある
- ✓ 収集による資源回収は「古紙類」「ビン類」「缶類」「ペットボトル類」で、ごみカレンダーの配布、HPや広報誌の掲載、出前講座等による啓発活動の結果、市民による分別はおおむね守られていることもあって、ごみ分別等の地域リーダー養成を目的に地区から選出してもらっていたリサイクル推進員は、令和元年度に終了した
- ✓ 市内スーパー・ドラッグストア・及び商店街振興組合連合会と消費者団体、市の三者で協定書を締結し、レジ袋の削減を図った
- ✓ プラスチックごみは、サーマルリサイクル(熱回収)している
- ✓ 廃棄物焼却施設からの廃熱は、近接の温浴施設等で再利用している

### 課題

- ✓ 清掃費は、毎年増加しており、令和元年度の決算額は平成22年度に対し約10%増、市民一人当たりになると約23%増加しており、経費削減が課題
- ✓ 1人一日当たりのごみ排出量削減と資源化率の向上を図る取組が課題
- ✓ 勝山市と連携し、ごみ排出量削減を目的にごみの有料化が課題
- ✓ 浄化センター(し尿処理場)は、供用開始から20年が経過し、設備更新が課題
- ✓ 廃棄物系バイオマスの利活用が課題
- ✓ 事業系一般廃棄物の大量排出事業者の把握とそれらに対する指導が課題

### 今後の取組の方向性

- スーパー等と連携した資源ごみ回収や、事業者との協定締結、市民による集団回収など、官民協働によりごみ排出量の削減を目指す
- 成果の見える化など市民一人一人が楽しく取り組める仕組みづくりを目指す。
- 温室効果ガス排出量の削減と化石燃料に依存しない社会、海洋プラスチック問題の解決のため、プラスチックごみの排出量削減を図る
- 適切な維持管理により、浄化センター設備の長寿命化を図る
- ✓ ごみ袋の有料化の検討(新規)
- ✓ プラスチックごみ排出量の削減(新規)
- ✓ 食品ロス削減対策の実施(新規)
- ✓ SNS等を活用した啓発活動の推進(新規)

ビュークリーンおくえつ(ごみ処理施設)	2006年竣工(14年経過 2020.3現在)
浄化センター(し尿処理場)	1999年竣工(20年経過 2020.3現在)



# 環境の現状と対応すべき課題

## 4. 第二期計画の成果と課題

## 9. 地球環境の保全

基本的施策	2020年に向けた目標
地球温暖化の防止	生活様式や事業活動の見直し、二酸化炭素等の排出量削減、自動車からの二酸化炭素排出量抑制、低公害車等の普及
酸性雨対策	硫酸化物等の排出を抑制する生活様式や事業活動、酸性雨に関する実態把握
オゾン層の保護	フロンや代替フロン製品の利用抑制、廃棄時のフロン類の適正処理、ノンフロン化の推進
森林の保護	森林資源製品の利用見直し、間伐材等の有効活用、自然保護に配慮した生活様式や事業活動の促進

### ➤ 現状、成果や達成状況

- ✓ 大野市においても、昭和51年から令和元年の平均気温、最高気温、最低気温はいずれも上昇傾向にある
- ✓ 市内のCO2排出量(平成27年推計値)は、平成22年推計値に比べ約10%増加しており、排出量の26%が家庭から、12%が旅客自動車からとなっている
- ✓ 県と連携した県民運動「LOVEアースふくい」の普及啓発に取り組んでおり、国際的な取組もあって「地球温暖化防止」に対する市民意識は高まっている
- ✓ 市内低公害車の登録台数は、年々増加傾向にあるが、平成30年度の普及率は9.8%で、国10.5%、県10.1%よりも下回っている
- ✓ 公共交通機関の利用者は、減少傾向にある
- ✓ 真名川左岸にサイクリングコースを整備し、自転車の利用促進を図った
- ✓ 高齢者の運転免許自主返納者に対し、市内の公共バス無料券を配布し、高齢者の公共交通機関への転換を図った
- ✓ 日本全国で気候変動の影響と思われる豪雨等、災害が頻発・激甚化している

### ➤ 課題

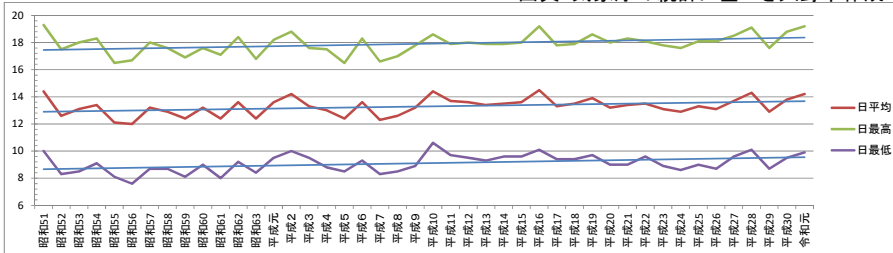
- ✓ グリーン購入やエシカル消費など、具体的な行動にチェンジさせることが課題
- ✓ 「がまん」や「削減」ではなく、生活や事業活動が豊かになる取組の結果、温室効果ガス削減に寄与するような取組やしきみづくりが課題
- ✓ 生活、事業活動ともに自動車に依存しており、それらからの温室効果ガス排出量の削減が課題
- ✓ 気候変動が環境や市民生活、農林業等の経済活動に与える影響についての調査研究やそれらに加えて頻発・激甚化する災害に備えた適応策の検討が課題

### ➤ 今後の取組の方向性

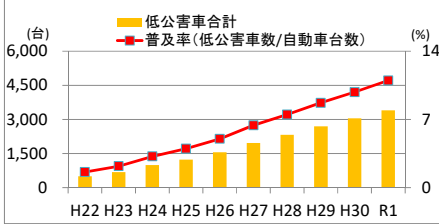
- 温室効果ガス削減成果の見える化や楽しく学ぶ取組を通じ、温暖化防止の啓発を促進するとともに、脱炭素型の新しい生活様式、事業活動の定着を目指す
- 公共交通機関や自転車の利用促進を図る
- 市の全ての事務事業や公共工事、公共施設において温室効果ガス排出抑制の取り組みを率先して実施する
- 気候変動が与える影響の調査研究と適応策を検討する
- ✓ 県と連携した県民運動「LOVEアースふくい」の推進(継続)
- ✓ 業界と連携した低公害車やエネルギー効率の良い住宅等の普及促進(新規)
- ✓ 大野市環境マネジメントシステム(大野市役所地球温暖化対策実行計画)の徹底実施(拡充)

### 大野市の気温の推移

出典: 気象庁の統計に基づき大野市作成

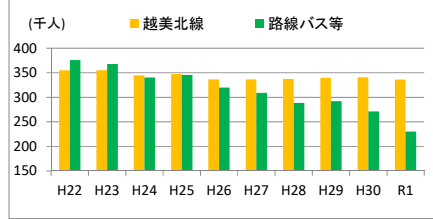


### 市内の低公害車の登録台数

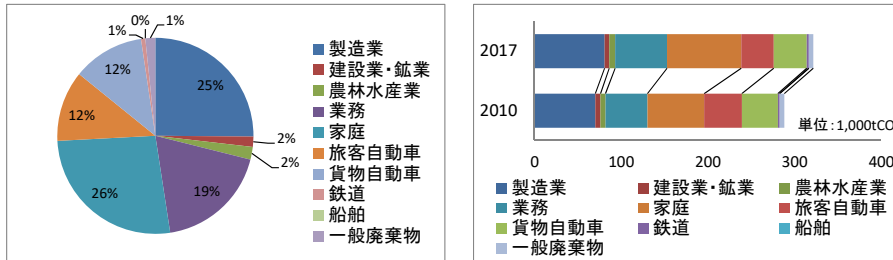


出典: (一財)日本自動車検査登録情報協会資料から大野市作成

### 公共交通機関の年間利用者数



### 大野市における部門別の二酸化炭素排出量(2017)



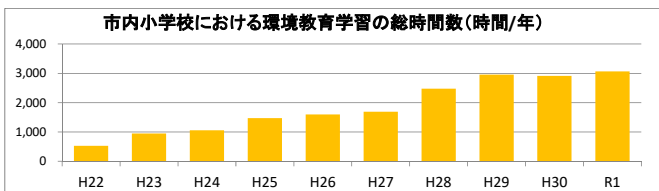
出典: 環境省 部門別CO2排出量の現況推計から大野市作成

# 環境の現状と対応すべき課題

## 4. 第二期計画の成果と課題

## 10. 総合的な環境対策

基本的施策	2020年に向けた目標
調査研究と情報提供	環境年次報告書の公表、市内における現況や取組実態や先進事例等の計画的な情報提供、情報提供システムの構築
環境教育と学習の推進	子ども達の自主的な環境活動の実践化、リーダー養成の推進、市民参加における環境意識の普及体制の確立
庁内体制の充実	環境意識の高い市職員の育成、充実した環境行政、環境マネジメントシステムの遵守



### 地域の環境特性に応じた地域活動の実施(令和元年度実績)

#### 【大野公民館】

- ・亀山東側斜面を活用した環境整備
- ・ジュニアリーダーによるクリーンアップ作戦

#### 【下庄公民館】

- ・花壇づくりコンクール
- ・木瓜川で生物観察会

#### 【小山公民館】

- ・花壇やフラワーロードづくり
- ・花壇やフラワーロードコンクール
- ・苗木の植栽活動
- ・山城の遊歩道の整備

#### 【上庄】

- ・花壇コンクール
- ・史跡の草刈り
- ・エコツアーズム先進地見学

#### 【富田】

- ・花壇の整備、花壇写真展の実施

#### 【阪谷】

- ・花壇コンクール

#### 【五箇】

- ・花いっぱい運動
- ・駅周辺の環境美化

#### 【和泉】

- ・クリーンアップ大作戦
- ・道端花いっぱい運動、花壇づくり

環境教育等促進法基本方針(平成24年6月閣議決定)

#### 「未来を創る力」

- 社会経済の動向やその仕組みを横断的・包括的に見る力
- 多様な視点から考察し、多様性を受容する力
- 意思疎通する力(コミュニケーション能力)
- 客観的・論理的思考力と判断力・選択力
- 他者に働きかけ、共通理解を求め、協力して行動する力
- 新しい価値を生み出す力
- 課題を発見・解決する力
- 他者に共感する力
- 想像し、推論する力
- 情報を活用する力
- 地域を創り、育てる力
- 計画を立てる力

#### 「環境保全のための力」

- 地球規模及び身近な環境の変化に気付く力
- 資源の有有限性や自然環境の不可逆性を理解する力
- 環境配慮行動をするための知識や技能
- 環境保全のために行動する力

出典: 福井県環境基本計画



環境塾の様子

### ➤ 現状、成果や達成状況

- ✓ 各学校で作成する環境教育計画に基づき計画的な環境学習を実践しており、市内小学校における環境教育にかかる時間数は、平成22年度に比べ6倍近く増加している
- ✓ 自治会等による地域活動を支援する補助事業「結の故郷づくり交付金」「世代間結づくり事業補助金」を開始し、公民館を核に地域住民が主体となって取り組む地域活性化事業の一環として、環境美化や環境整備等の活動が行われている
- ✓ 市内で自然等を体験できるメニューを一覧「おおのまるごと満喫キャンペーン」にまとめ、市内小中学生に案内、子ども達が大自然の自然等を体験する機会の創出を図った
- ✓ 大野市環境マネジメントシステムにより、エコオフィス活動(省エネ、ごみ減量化等)に取り組んだ

### ➤ 課題

- ✓ 少子化(市内小中学の児童生徒数の見込み R2年度2024人→R12年度1,676人 ▲24%)と高齢化に伴う、受け手と担い手の減少を踏まえ、学校や団体、地域リーダー及び行政など、環境教育に取り組む主体同士の連携が課題
- ✓ 学校再編に伴う、学校から公民館等地域団体等への各地域の環境学習フィールドの継承が課題
- ✓ 人口減少や高齢化、生活様式の変化等に伴い停滞傾向にある地域活動の活性化とその活動を担う人材の育成が課題
- ✓ 国や専門機関等から収集した情報の事業者等(関係する業種ごと)への提供が課題

### ➤ 今後の取組の方向性

- 持続可能な開発のための教育(ESD)を学校だけでなく、地域、社会、職場等幅広い場において推進する
- 環境教育を担う各主体との連携を高めるとともに、市民協働により地域の資源を生かした取り組みを進める
- 「道の駅荒島の郷」を拠点に、アウトドアスポーツや自然を生かしたアクティビティを促進する
- SNS等を活用し、市民や事業者等に対し情報発信と情報提供を推進する
- ✓ SNS等を活用した情報発信(新規)
- ✓ モンベルとの連携による「道の駅荒島の郷」を活用したアウトドアスポーツの推進(新規)